

小学校第4学年2組 学級活動指導案

授業者：T1 教諭
T2 栄養教諭

1 活動名

食品ロスについて考えよう

2 本時のねらい

- ・食品ロス問題は、自分の食生活と関連していることが分かる。(知識・技能)
- ・食品ロスを減らすために、自分がしていきたいことを考えることができる。(思考力・表現力・判断力等)

3 食育の視点

食に関する指導の目標					
食事の重要性	心身の健康	食品を選択する能力	感謝の心	社会性	食文化
			○		

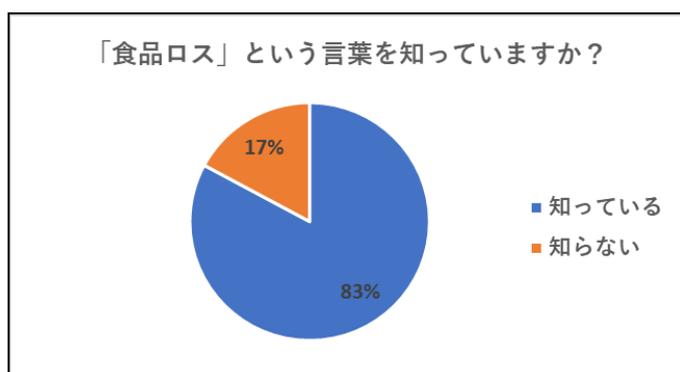
4 本時の構想

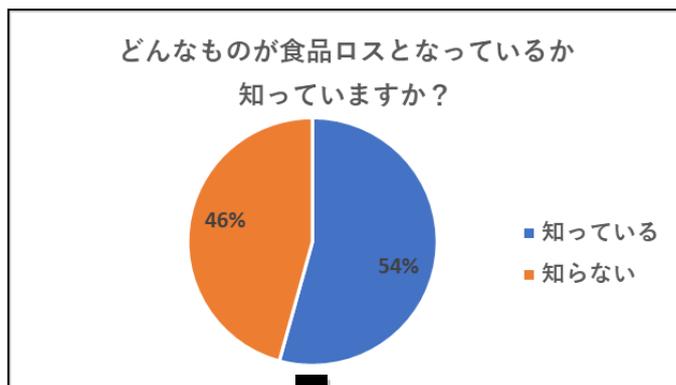
(1) 児童の実態

本学級の児童(35名)は、総合学習で環境について学んでいる。1学期に近くの川での活動で、川にごみが多いことを知った。それを受けて、2学期は学校のごみを減らそうという活動を行っている。

本学級の給食の様子をみると、食べるのが好きな児童が多く、残食は少ない。食品ロスを少なくするため、残さず食べようという姿もみられる。

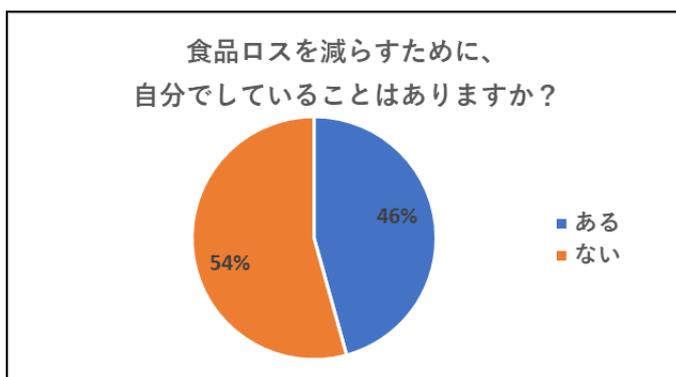
本題材を行うにあたり、食品ロスについてのアンケートをとった。約8割の児童は、食品ロスという言葉を知っているが、食品ロスとなっているものについて知っている児童は約半数であった。知っていると答えた児童の中でも、「食べ物」と答えた児童が約4割、「生ごみ」と答えた児童が約1割おり、食品ロスについて具体的に理解していない児童もいる。また、食品ロスを減らすために自分でしていることがある児童は、半数以下であった。





知っているとした児童の回答

・食べ物	27%	・生ごみ	9%
・賞味期限切れ	27%	・まだ食べられるのに捨てられるもの	9%
・残った食べ物	14%	・傷がついたもの	5%
・料理を作るとき、食べられるところを捨てる	9%		



(2) 授業の構想

本校の研究主題は、「生き生きと学ぶ子ども」である。本時では、「学びと自分の食生活との関連が分かり、これからの食生活に生かそうとする姿を生き生きと学ぶ姿」とし、本時のねらいを達成するため、以下の手立てを講ずる。

①食品ロス問題を理解するための教材について

食品ロスには、環境問題、貧困問題、経済問題など複数の社会的問題が付随しているが、本授業では、総合学習と関連を図り、環境問題とのつながりに焦点をあてて行う。食品ロスについて理解を図るために、動画や資料を活用し、自分の食生活が食品ロスの要因となること、そしてそれが環境問題などともつながっていることに気付かせる。

②多様な意見を聞き合い・学び合う場の設定

食品ロスとなる原因や食品ロスを減らすにはどうしたらよいか、班での話し合い等を通じて、多様な意見を聞き合うことで、児童の考えを広げ、食品ロス削減への意欲を高めたい。その上で、まとめでは、食品ロス削減のために自分がしていきたいことを自己決定させる。

5 展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	□指導上の留意点 ★評価（評価方法）
導入 3分 (T 1)	○本時の学習を知る。	□総合学習での活動を振り返り、本時は「食品ロス」について考えることを伝える。
展開 10分 (T 2)	○食品ロス問題について知る。 ・食品ロスがこんなにたくさんでいるとは知らなかった。 ・食品ロスは、環境にもよくないことは初めて知ったな。 ・食品ロスが原因で、食べ物が育たなくなるのは嫌だ。	□動画を見た後、食品ロスや食品ロスによっておこる問題について、資料を用いて補足説明する。 □食品ロスの量は、日本の量の他に、身近なものとして、給食の残量も紹介する。 □食品ロスは、自分の食生活が要因となること、そして、環境問題ともつながっていることに気付かせる。 ★食品ロスについて理解できたか。（発言・ワークシート）
20分 (T 1) (T 2)	○食品ロスとなるものや、原因、解決策について、班で考える。 ・食べ残しや、期限切れの食品が食品ロスとなっていると思う。 ・スーパーの売れ残りもそうかな。 ・食べ残しの原因は、苦手な食べ物を残すことや、食べきれなかったことかな。	□食べる時、買うときなど具体的な場面をイメージさせる。 □ある程度意見がでたら、他の班の考えを見たり、聞いたりする時間をとる。 □他の班でよいアイデアがあれば、参考にしてよいことを伝える。
7分 (T 1)	○班で話し合った内容を発表する。 ・食品ロスを考えて、苦手なものも食べる。 ・必要な分を買うようにする。	□いくつかの班に発表してもらう。 □給食で、食品ロスを減らすためにしていることも紹介する。
まとめ 5分 (T 1)	○本時の学習を振り返り、食品ロスを減らすために、自分がしていきたいことをワークシートに書く。	□クラスででた意見をもとに、食品ロス削減のために、自分自身がしていきたいことを自己決定させる。 ★食品ロス削減にむけて、自分がしていきたいことを考えられているか（ワークシート）

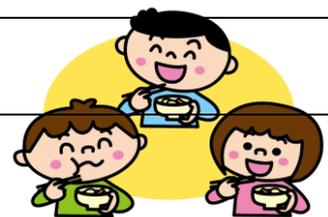
7 資料

【ワークシート】

食品ロスについて考えよう

年 組 名前 _____

1. 食品ロスについて、分かったこと、これから自分がしていきたいことを書きましよう。



8 協議会記録

【授業者振り返り】

- ・「食品ロス」をテーマに選んだのは、4年生が総合学習で取り組んでいる「環境」や、「SDGs」と関連させた食育をやってみたいと思ったからである。初めてだったが挑戦した。
- ・食品ロスには、環境問題、貧困問題、経済問題など複数の社会的問題が付随しているが、本授業では、総合学習と関連を図り、環境問題とのつながりに焦点をあてた。
- ・同じ授業を1組でも行った。その時に、「食品ロス」となるのはどんなものか、子どもたちはイメージしにくいのではないかと思った。本時では、動画や資料を用いてわかりやすく伝え、子どもたちがより気付けるように工夫をした。

【指導・講評】

- ・食の問題は子どもたちにとって身近である。食には、食べないと生きていけない、体をつくるという栄養的側面だけではなく、給食を楽しみにする気持ちだったり、食がプレゼントとなりコミュニケーションを育んだり、食には、「満たされる」「幸せ」という役割もある。

・教科の中には食育科がない。近いのは家庭科だが、5年生にならないとできない。今日は、授業の枠を活用した新しい食育の提案ができた。決して教科だけで子どもの成長がなされるわけではなく、教科を超えて子どもを支えていくことが大切である。

・食品ロス問題は社会的な課題である。子どもたち自身が、社会の一員であるという自分の存在に気付き、社会の問題は身の回りの問題（わたしの問題）であることにも気付かせたい。

・授業の後で、子どもたちが食品ロス問題に今までにない引っ掛かりを感じ、「もしかして食べられるんじゃない?」、「これを食べるにはどうしたらいいか?」などといった子どもの姿が見られるのではないか。今後、その姿を楽しみにしたい。

【協議事項①】◎効果があった △検討事項

ねらいを達成するための手立ては有効だったか。

手立て：(1) 教科との関連の図り方 (2) 教材の活用の仕方 (3) グループワーク

(1)

◎環境の中の1つのテーマ「食」から、食品ロスの現状→環境に戻ってきていたので、栄養教諭が関わるテーマとしてよかった。

△栄養教諭はもっともっと「子どもの意識」が今どこにあるか?という視点を持ち、総合と関わる必要があると思う。担任と一緒に活動（総合）をつくっていくという気持ちが必要。

(2)

◎最初の動画の教材にインパクトがあり、子どもたちも真剣に見ていた。短い時間で「食品ロス」について理解できるよい教材だった。ただし、動画が速く、子どもが理解する前に進んでいたため、スピード調整できたらよかった。

◎みんなで意見を出しあって考えていたことがよかった。声をかけると、より具体的に書くことが出来ていた。

◎給食での食品ロスを減らすための取組紹介が良かった。「そうなんだ～」と、反応している児童がいた。11月の給食で実施予定のSDGs スープの工夫なども、併せて紹介できるとよい。

△全校の給食の残りの写真も見せた方がよかったのでは? 子どもにとって身近な食品ロスだと思う。

△掲示した資料が見にくかった。せっかくかわいいイラストだったので残念。

(3)

◎自由に何でも話せるようなクラスのムードがよかった。活動的で、4年生らしく生き生きしている印象を受けた。

◎話し合いがとても盛り上がり、笑顔で話していた。ラーメンの汁、骨、りんごの皮は食品ロスか?どれも現実であるが、「でも捨ててしまうよね・・・」と自分も思う。子どもは笑いごとのように話していたが、実際どうするとよいか考えていけるといいなと思った。

◎ねらいを達成するための教材（動画）や、グループ策での意見のシェアなどがあり、児童の考えがより深まった。

【協議事項②】 ◎効果があった △検討事項 ・他アイデア

学びと自分の食生活との関連が分かり、これからの食生活にいかそうとする姿がみられたか。

◎食品ロス世界的な問題なので、どこかの学年で毎年継続して取り上げてほしい。総合とリンクさせて食育として実施するのはいい考えだと思った。

◎家での食事の様子を思い出しながら、消費期限や野菜など食品ロスを減らそうとする姿があった。感想にもみられた。

◎子どもにとって「買う」「選ぶ」は、他人ごとだが、最後は「苦手なものも食べる」など自分事として考えている姿があった。今後、総合でも環境面で自分事として考えることができそうだと感じた。

◎教頭先生のご指導にあったように、今後の姿として、「もったいないな」「一口食べようかな」「おうちの人に捨てないように言おう」といった姿が期待できる授業だった。

◎大人が思いつかない食品ロスが子どもの視点で思いついていた。→自分事として捉えられていた。りんごの皮、魚の骨、ラーメンの汁などを、食品ロスとして捉え自分ごととして考えていた。

△食経験が乏しい子には、(親と買い物に行かない。料理をしない。)イメージしにくい。

△家でゴミを捨てる様子などなかなか見ないことが多いかもしれない。児童に食品ロスの食べ残し、外食、バイキングなどの視点を与えてもよかったか。

△場面を分けて「食品ロス」となっているところを考えると思いついたかもしれない。(例) 家での食事、給食の場面など

・家の人に「食品ロスインタビュー」を子どもがするのはどうか。食品ロスを知っているか?どんな工夫をしているか?その結果をグループで見せ合うところからのスタートという活動でもよかったかもしれない。

・今回の授業を子どもの意識に定着させるために、「給食の食品ロス対策最新ニュース」「〇〇先生の食品ロスなし作戦」「家での工夫」など、子どもに身近な活動を取り入れ、繰り返し子どもたちに紹介するとよい。